

13  
1760  
11





唐土訓蒙圖彙卷之十三

水去五味均平歲

禽獸

此物は山川林地水原の畜すべし  
とらるゝものなりとて  
殊に

獄鳥獄鳥 此鳥は

此系多し國語に周のころ時  
岐山よりくといへり

世樂鳥世樂鳥 南方より出づ

丹蒙赤首の冠あり王者明德ありく  
天下太平なる時多あり



唐土訓蒙圖

卷之十三



秋鳥

一名扶老  
鶴の廣さ  
五六尺と  
わかれ六七  
尺長頸赤  
目死項より  
皆毛なし  
是れ鶴の  
とく正色也



水禽

水禽は大き  
孔雀のく嘴  
長尺餘は  
口勾り末冠  
のく二條  
作ると心  
酒器の心  
木葉と合  
鶴と合  
香は似たり



玄鶴

その色正  
音の者  
わが時  
帝樂を  
崑崙山  
のく小  
つと鶴  
と合り



陽鳥

鶴の似く  
殊り小  
身黒く  
頸長  
て  
は



昆鷄

鶴より似て  
其白色に  
頷長く喙  
赤く九辨  
啾啾  
鳴る



鶉鳩

鳥の類  
田圃  
生



旋目

大に鶴に  
加して尾  
みかき  
お白きこ  
深月七  
月の旁の  
毛を以て  
旋目文  
選上林賦  
のく



大に鶴に  
加して尾  
みかき  
お白きこ  
深月七  
月の旁の  
毛を以て  
旋目文  
選上林賦  
のく





鶺鴒

水鳥雁乃  
屬長頸綠  
色之形厚  
似其羽裘  
一極狀之  
足短指  
前似之



唐土自夢園

非羽羽平

似魚狗  
似大  
水色  
魚  
或ハ冠有  
灰色之窟  
紳羽



嗽金鳥

昆明國出  
川形雀  
如色黃  
魏の明帝  
の時  
獻に真珠  
急猛と解  
常に金屑  
をく



鶺鴒

形ハ雀  
似て尾長  
好く  
華の皮  
割て中  
の虫と合  
四月の同



高桂

麻雀ハ似  
イモ黒色  
つノ高  
の間在  
故工の石  
ありこれ  
食く高桂  
より



黄鳥

形ハ鶴  
至ハ大  
羽黄色  
尾上黒  
相ま  
唇黒く  
尖り脚  
日か  
うら



突厥雀

大ハ鶴の如  
形ハ雀  
後ハ  
尾ハ  
好  
群



繡眼兒

形ハ雀  
月白  
少ハ  
如ハ  
青ハ  
紅ハ  
白ハ  
黒ハ



鶺鴒

鶺鴒小鳥七  
高し本より  
より中より  
故に射候は  
さこのちを  
務め  
此と交  
らくてうと  
すの非し



正

正ハハハ  
鶺鴒小鳥  
て飛候疾  
射候  
布俣畫  
し  
これと  
おろ



反舌

反舌の鳴  
五月に  
至て止ま  
と及易に  
百鳥の鳴  
子效又百  
舌も名

杉鷄

杉鷄の鳴  
の如く  
ありて類  
高橋の如  
杉樹の上  
に



氏眼母

大之鶺鴒の如  
黒色に南  
方池澤の  
菰草の中  
に生れ其色  
人の吐する  
く其色  
した故一二  
葉と吐



鳴鶺

その鶺鴒  
の如く  
して是を  
赤色を  
りつ  
御火と  
一



鶺鴒

此の形を  
鶺鴒に似  
て目鶺  
似て  
屈候  
總條の如  
あのを羽  
しつこと  
あのを



鶺鴒

青要山  
鳥の如  
鬼の如  
ま身  
して赤尾  
なりこれ  
と合ふ子  
孫



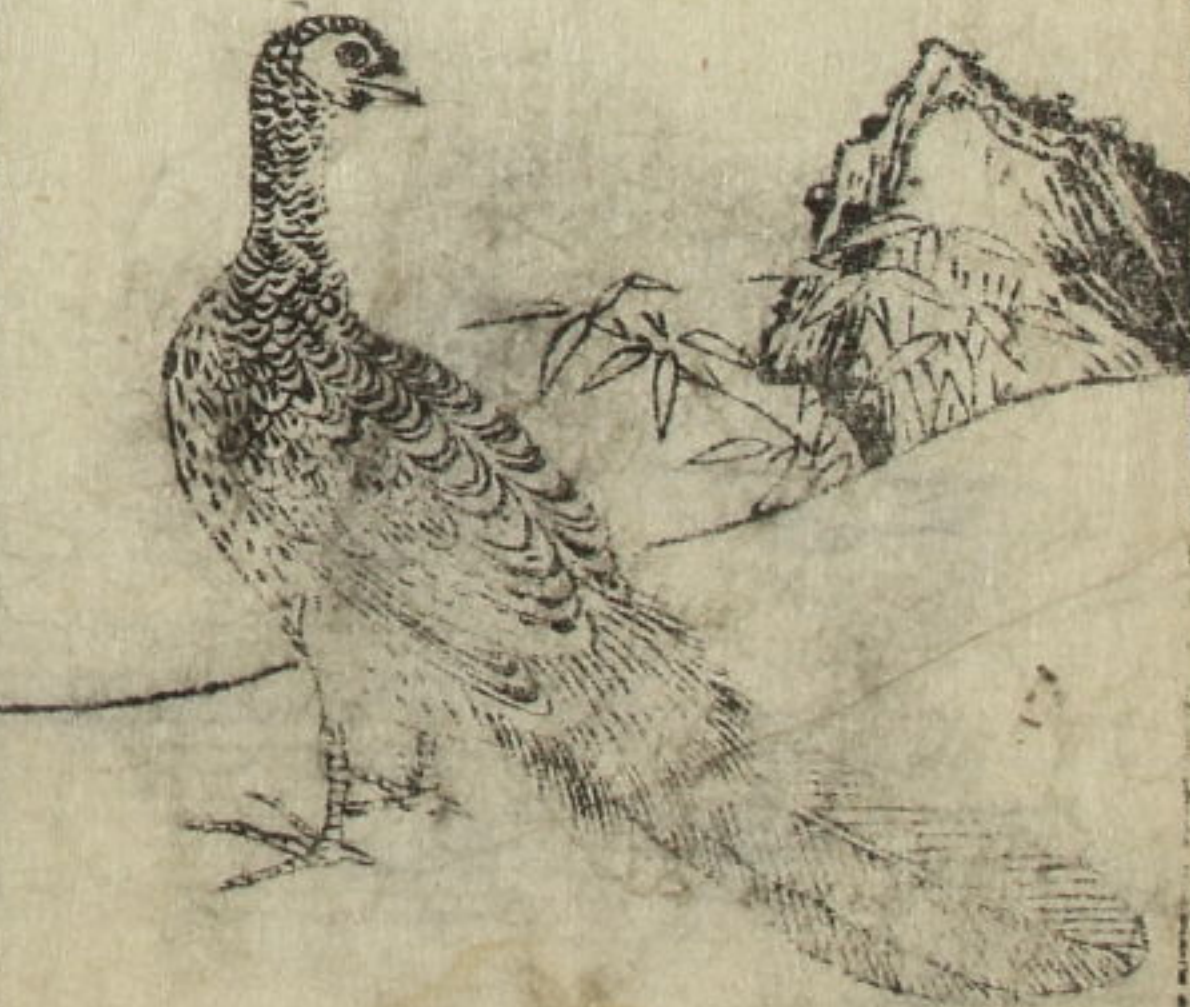
華鳥

この鳥は小  
冠青毛  
鮮明  
洞赤  
の  
二章



當鳥

その  
紺子の  
尾ハ  
芭蕉  
人食  
目  
ろに



鷓鴣

雉  
大  
首  
冠  
性  
和  
一  
と



潔鉤

その  
鼻の  
尾ハ  
及  
の  
と



鷓鴣

鳳  
神  
郁  
南  
方  
り  
五  
彩  
の  
鳳



精衛

神  
女  
昔  
海  
化  
に  
と  
と



鷓鴣

鷓  
不  
祥  
の  
鳥  
魚  
状  
小  
う  
て  
雛  
の  
文  
家  
の  
接  
イ  
ハ  
ル  
サ  
ケ  
ビ  
ニ



立月耕

その  
白  
尾  
繁  
の  
と  
の  
り





雕

そのつら  
つらつら  
のつら  
人のつら  
目つら  
つら  
つら



鷹

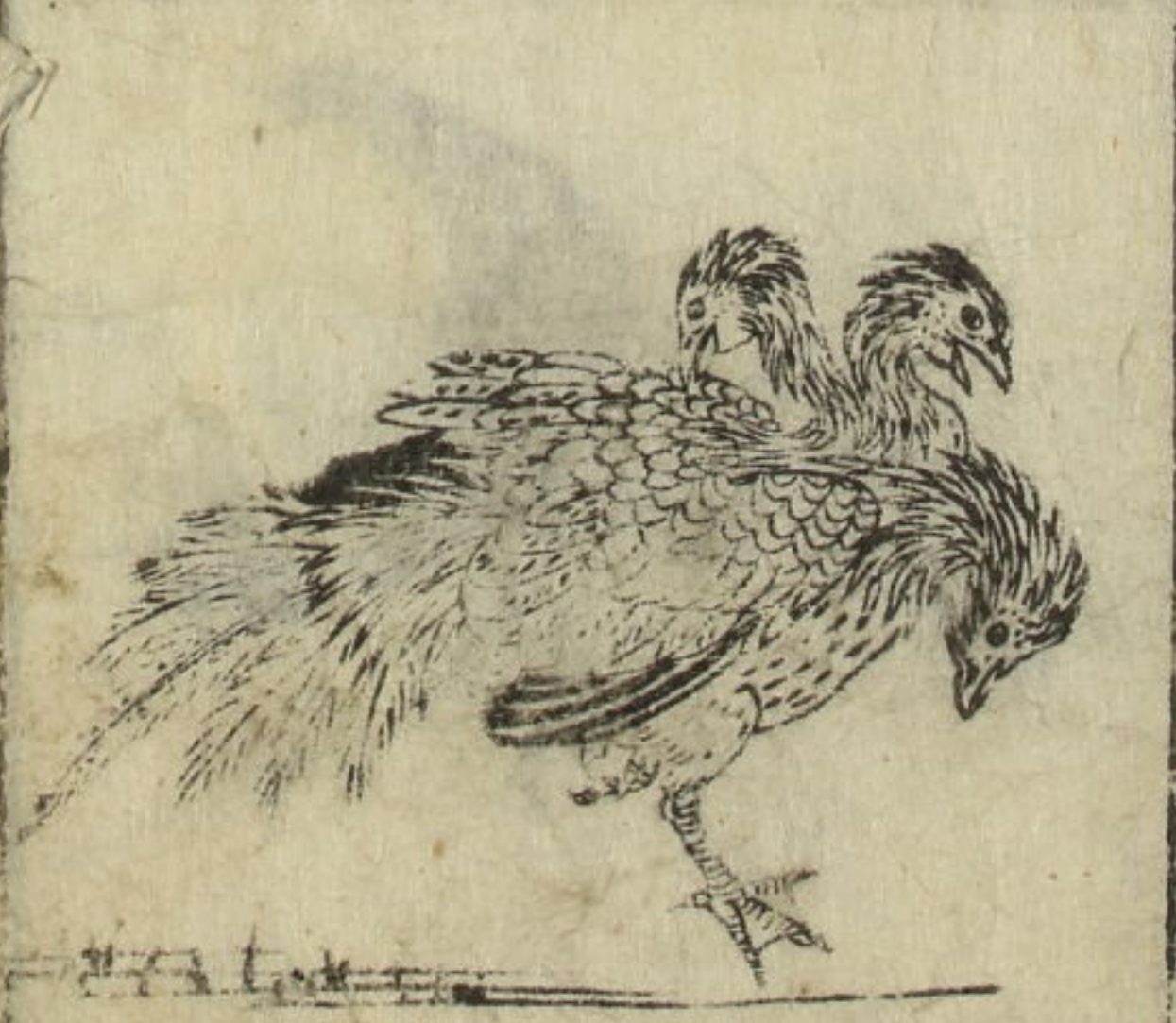
飛簾

鳥のつら  
俗通曰飛  
簾神雀  
と致れ  
いし是こ



眼佳如

そのつら  
鳩のつら  
三首つら  
足長つら  
尾長つら



鶉

そのつら  
鶉のつら  
三首つら  
足長つら  
尾長つら



鷓鴣

鬼車鳥  
天雀らね  
つらつら  
いさつら  
人のつら  
と收びつら  
物のつら



寒鴉

寒鴉  
脂靈五  
のつら  
肉翅つら  
月毛五色  
自らつら  
毛長つら  
久つら  
毛長つら  
脂靈五



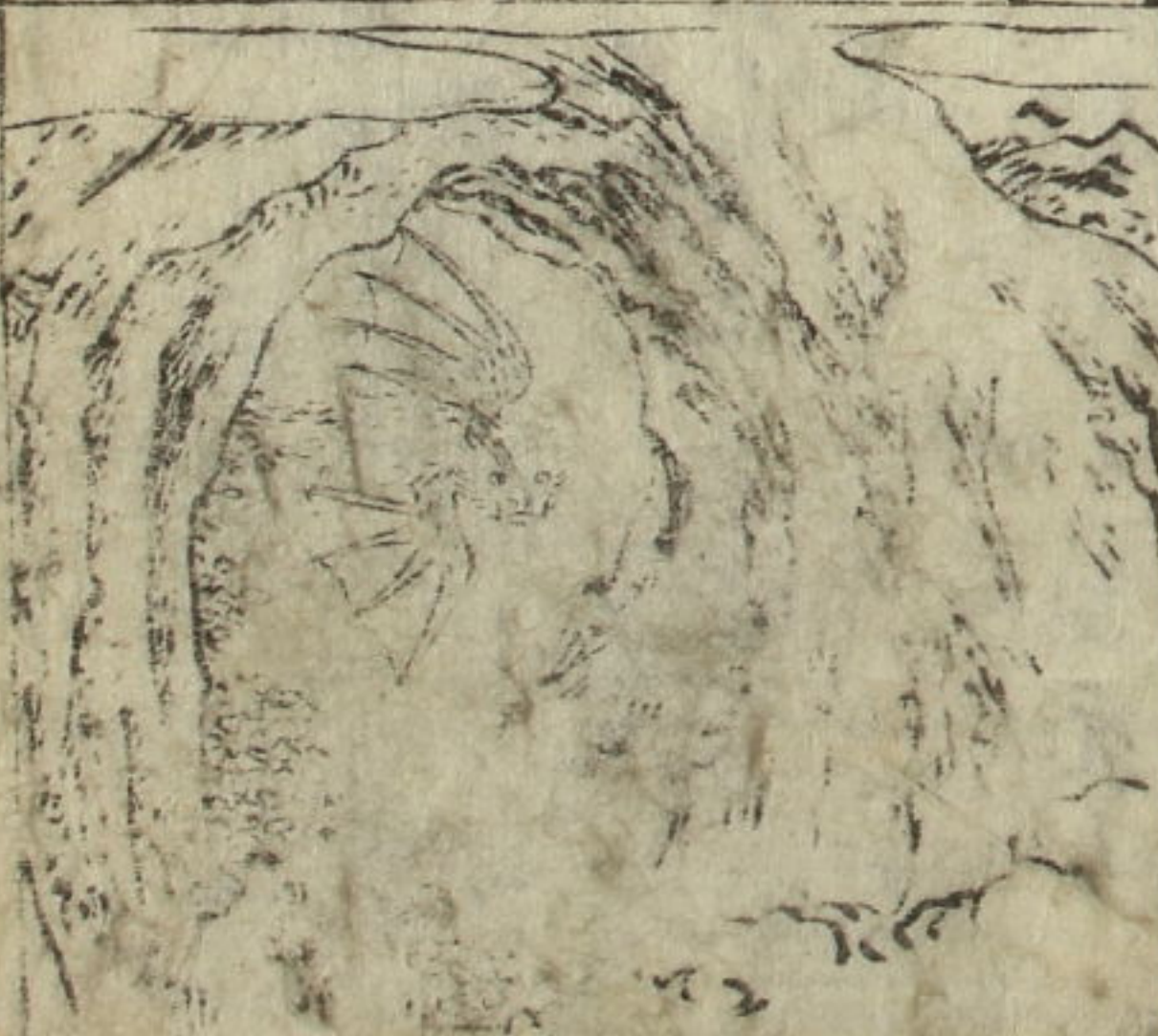
治鳥

大さ鳩の如  
紫イ葉とつ  
らつらつら  
体入つら  
聖とつら  
同イつら  
色つら  
あつら



石燕

石燕  
乳穴石洞  
の中つら  
状編つら  
似つら  
石のつら  
の石つら  
わつら



雲窓日氷して讀耕の供に書冊を枕して宰予と學ん  
 たる忽ち窓あり桑柘と啓く入る寒暄畢て後机の上の  
 稿と探り閑る禽羽のいさよと掩て嘆し且怪て曰  
 今此圖の如きものありお人論ありて未だ周既の  
 多しと云ふ多しと云ふ亦彼大鵬の如くは莊周既の  
 王城探り圖に今ある載りて遠きことありて  
 將疑しよと閑る請う其後と問ふと予佛の如く  
 曰る必大鵬とゆふや夫鸞鳥の禽也其靈秀  
 して聖代を出て岐山をかく壁人の中に聖賢の  
 大鵬禽中の怪物也海に出る九天と遠く程人中  
 壯老と云ふは此流皆古也誕其荒唐なり故に今  
 屏を疑ふと閑る惟この質の知やはくして未だ圖  
 にも世の希有なりと閑る此地の如くありて  
 是も亦格物窮理の一助なりと閑る又王折も知  
 圖すれはわらわらと笑も亦斬渠すべしと閑る  
 かりと云ふと云ふ復書と陳て日の西すること不知

鹿

此鹿の信うて礼に應じ  
 の額赤き目五の蹄仁と含み義  
 と懐き音鐘呂一中を行知知りあり



龍馬の  
 馬八人の龍の昔伏羲の時  
 黄河より流るる龍の背に旋る  
 龍の背に伏義されしと八卦と畫し



白澤

東望山は伏  
 歌あり能言  
 王者徳幽遠と  
 照以時空  
 昔帝巡狩  
 東海に到り時  
 此歌言詠

果然

仁獸也後より  
 大いし体三足  
 すは鼻孔  
 天よひし面  
 時ハ木上を  
 尾を鼻とふ  
 柔白黒文  
 天子衣衣十  
 三章あり香  
 宗養これし



金猊

形獅に似て  
その性史綱  
とこのい故  
香炉の蓋  
乃こゝに立つ  
世に獅子乃  
香炉の蓋  
あやこり  
猊なり



類

狀の猊の  
鬃の  
北壯  
はま  
へんよく  
姑まに



三角獸

西凸山一  
三角獸あり  
すれしり  
瑞獸なり  
先王法度  
脩明なる  
時



角端獸

東山一角  
獸あり瑞物  
なり六合天  
下向く太  
平なれん  
のつり  
いつり



擣杓

獸の至て  
烈者に屬  
と好ん死と  
三つは狀ハ  
虎の毛  
の長三尺余  
虎爪日亦天  
八尺人と食



龜

虎の屬し  
立林の目ふ  
獸と交れた  
柳文曰龜  
ハ虎といふ  
虎ハ麗を  
畏るといふ  
也なり



豹

豹の類  
猛獸なり  
國よ此詩  
經曰獻其  
皮陸機曰  
豹ハ虎に似  
たりと



赤豹

赤豹  
赤毛詩  
宣王の詩  
赤豹黃  
と



海豹

その毛約  
のやくおに  
五色の文  
あり水陸  
にあり一  
のちとて  
時水今  
和名カラシ



海牛

その長さ  
丈餘あり  
角か  
尾の  
尾の  
尾の  
尾の  
尾の



犛牛

犛牛の如く  
うて角を  
はいて  
其帝を  
てて皮を  
てて  
る百里  
よこ



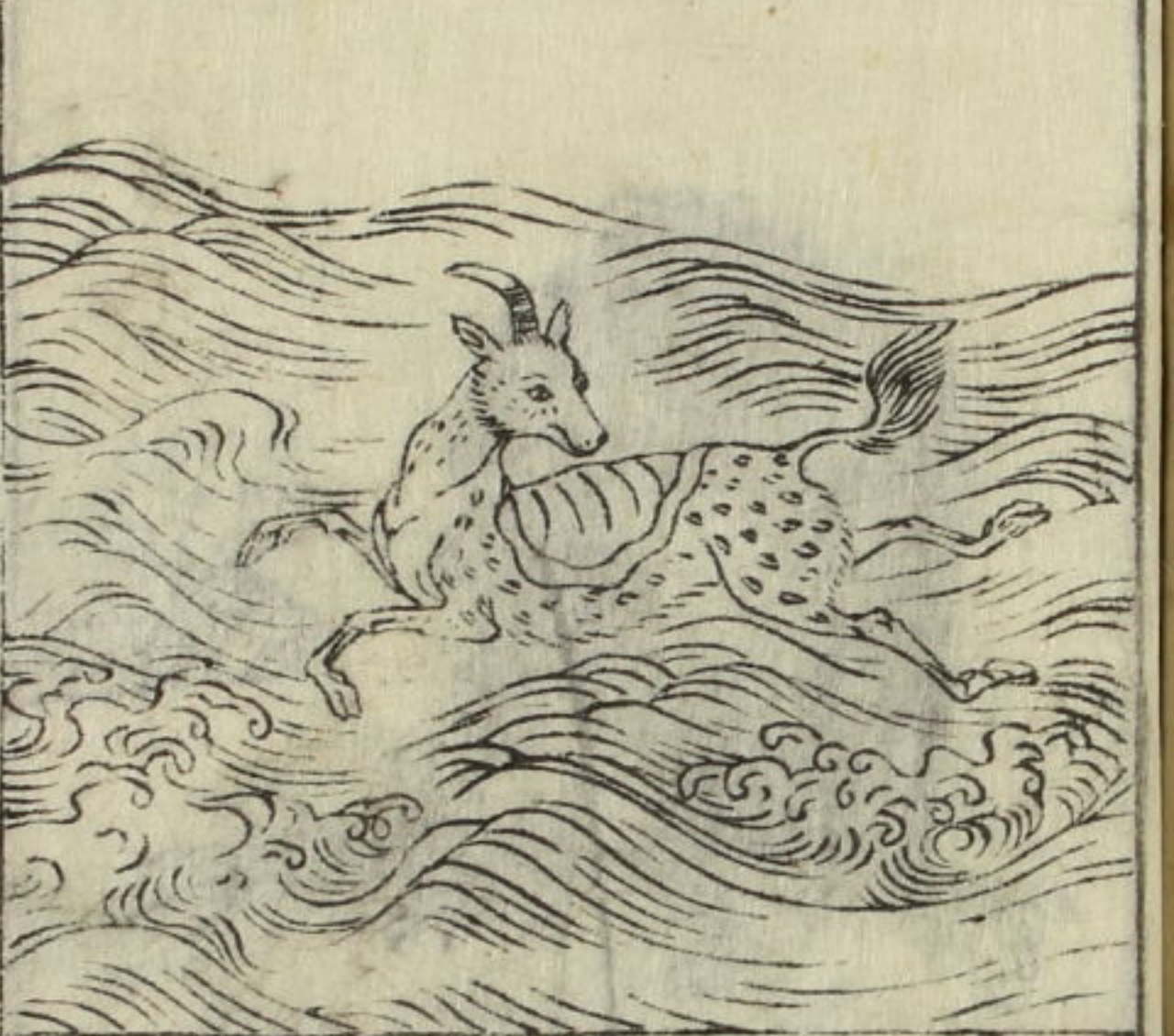
鬪鐵

その状水  
牛の如く  
毛の長  
毛の長  
毛の長  
毛の長  
毛の長



水犀

犀に較する  
山犀三角  
水犀三角  
一角ありて靈  
角ありて通天  
通天あり者  
と云ふ  
と云ふ  
と云ふ  
と云ふ  
と云ふ



犛牛

西南夷の長  
毛半、牛は  
似て四蹄  
及の肘皆赤  
毛の長尺餘  
あり尾を  
てて天を  
車轡あり  
は尾を以て  
はら



四角

犛過山に多  
一狀野牛の  
角長三尺餘  
馬帯とて  
身の重十斤  
其皮厚く  
澄と制一



犛牛

狀水牛の如  
体は多力  
犛下黒毛を  
尾を以て  
古人は  
を以て  
を以て



四熊ノ外

狀熊ノ似て  
白文アリ  
頸ノ下  
脚ノ下  
性極慈多  
カ人ノ  
之  
人  
害  
人



獲

色  
能人  
持長  
人ノ  
て健  
或ハ  
歳  
考



猯

狀  
好  
又  
す  
せ  
ゆ

猯

後  
正  
腰  
の  
白  
握  
握  
握



野干

狀  
新  
正  
人  
髪  
俗  
向  
り  
ひ



蒙頌

狀  
小  
河  
此  
氣  
猫



獨

形  
て  
よ  
た  
後  
し  
さ  
あ  
獨



獨

狀  
小  
赤  
赤  
く  
く  
川  
神



赤狸

西海より周文王の夢里に因て散宜生を獲て西伯の豹とす



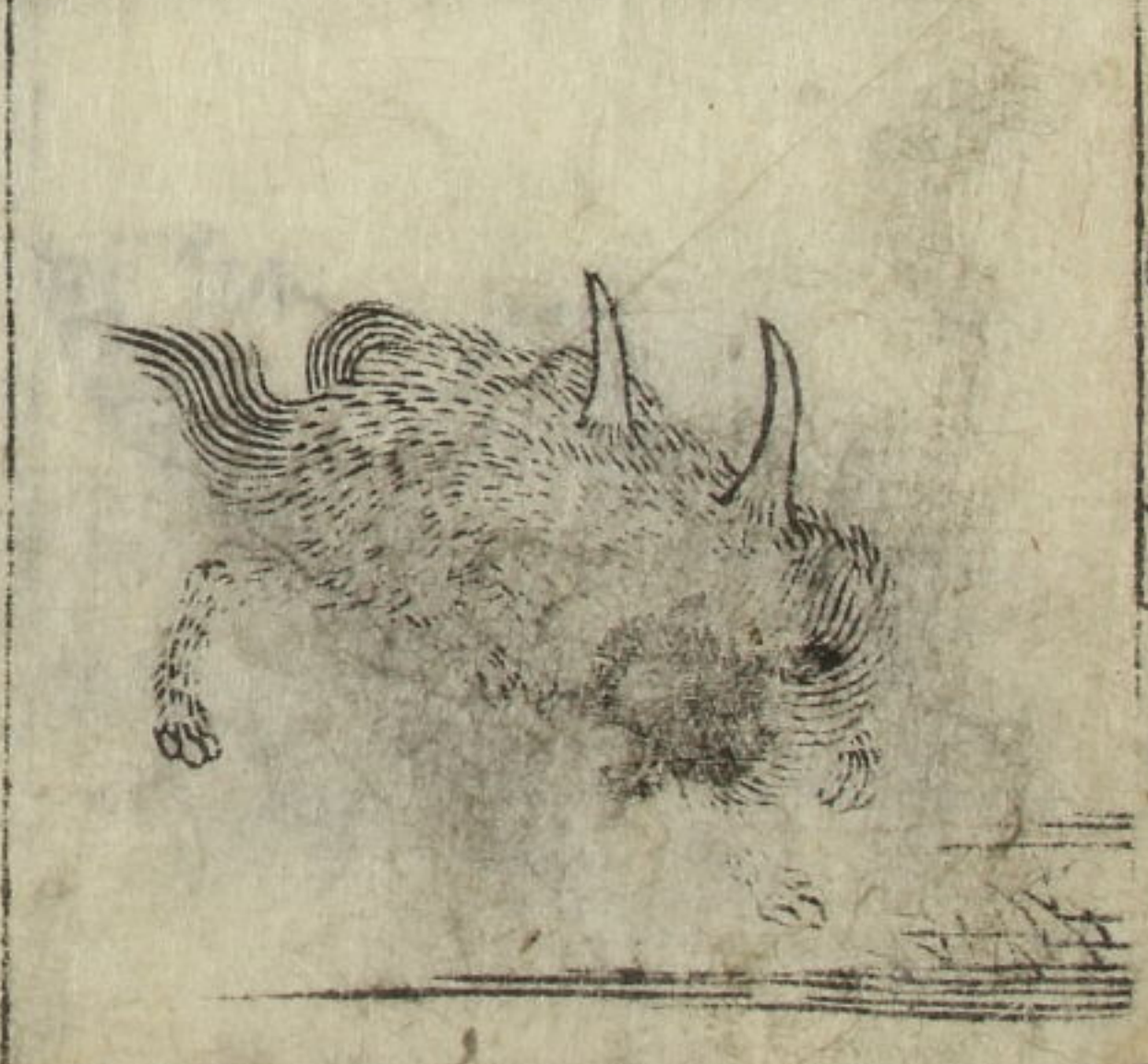
風狸

此犬は穴に居て風を捕るなり



象黃

西海の外白民國にあり白身髪と被り狀狐の如し其背に上角ありこれ象に壽二千歳なり



玄豹

滲那澤に法新あり穆天子はとて河とすつ周礼に玄豹と云ふ此地氣といふ



天狗

陰山は獸の如く狀狸の如く自首蛇と合人其音猫の如し是と佩と山と禦へし



狡

玉山は獸を犬の狀にして豹の文牛乃角あり犬の多きは目と鼻にありて天狗と云ふ



豹

胡大に梳は似たり家思くありち豹は虎に似たり千とてかた干抄意あり君を虎とね来をつらちとてとれ



黒狐

北山は黒狐あり神獸と王者能く太平と致すは獸なりこれ四夷來貢に周の成王乃時いれ



唐土御家圖書卷十三



天馬

馬成山子  
獸あり狀  
白犬の如  
くして然  
る人との  
とれは花  
は獸の如  
くは  
豊穰し



猛狗

南山に獸  
態あり毛  
彩光澤  
あり  
之食  
淵深



矮把狗

畜國  
いけり  
似ては  
く身あり  
尾まじ  
長人  
名拂  
馬鏡  
哈吠



木狗

獸物の如  
くして  
毛あり  
のわら  
皮とあら  
もふさ  
く氣血  
く



腹犬

天門山に  
あり天物の  
流に生  
生する  
十の  
海の  
好雷の  
光電の  
ひり梁  
の



當庚

欽山中  
獸あり狀  
豚乃  
其鳴  
自ら  
之の  
天下  
穰



諸捷

單張山に  
あり狀豹  
のめ  
之尾長  
鼻牛の  
目直  
とれ尾  
く



兼

狀ハ  
白首  
かり  
大  
風





猛棍

譙明の山  
は獸を食  
狀類を  
毫あり  
鼯鼠を



鹿蜀

相陽の山  
白首  
虎文あり  
尾赤く多  
人此皮を  
珍む



臙陳

歌あり狀  
馬首に  
角あり以て  
箱へ



益胤

馬よりも  
産す多  
乃奇



旄馬

南海の外  
あり狀馬  
の如くして  
毛あり



山驢

強れ多く  
角八稜羊  
の如く  
や大



果下馬

此の海  
三へり  
極小  
のり物  
果を食



海驢

狀駝の如  
秋月海  
のり物  
皮ハ製衣  
て馬具と  
名トド



羆

西方の野  
羊狀驢の如  
其角甚大  
夏の所産  
其角の角上  
生にこれと  
似て此を  
是とせしむ



封羊

形ハ羊の  
角ハ春  
の肉とく  
絶此也  
故羊  
死年  
果



羴羊

華山の獸  
わり狀羊  
うて尾ハ  
るのト  
羊の大  
ある  
脂ハ  
活す



羴

句山ノ獸  
わり狀羊  
の如ク  
色  
其性  
根人  
殺



葱薺

竹園山  
ありと  
羊一  
鬚  
首  
く



一封駝

形ハ  
肉ハ  
封  
俗



野渡

野渡  
一は方寸の卵ありと  
武夫ありてこれと



山獠

山獠  
てくら



唐土訓蒙圖彙卷之十四

各下  
名

魚介蟲

以魚介魚鱗甲之類也  
のせり乃まはり

辰

その形蛇に似て大角ありて  
の狀のくまに似るに後には鱗

應龍

朱丘山

魚能

翼あり

花やむ

黄帝

龍の野

二御

とひ





鯪魚

板野より  
修くを白  
く鯪魚  
く鯪魚の  
かりがし  
白濁  
多

石斑魚

白鯪  
黒斑  
虎の  
五月蛇と  
交る此魚  
水面より  
人の身を  
固くは  
よく入る



石鯪魚

溪洞の中  
生れ長  
後守は月  
裏後の下  
わくは  
くは合  
一名山六五  
山平八エ

吉加魚

鯪魚  
肉くは  
美なり  
魚丙元  
必川而初  
賦あり

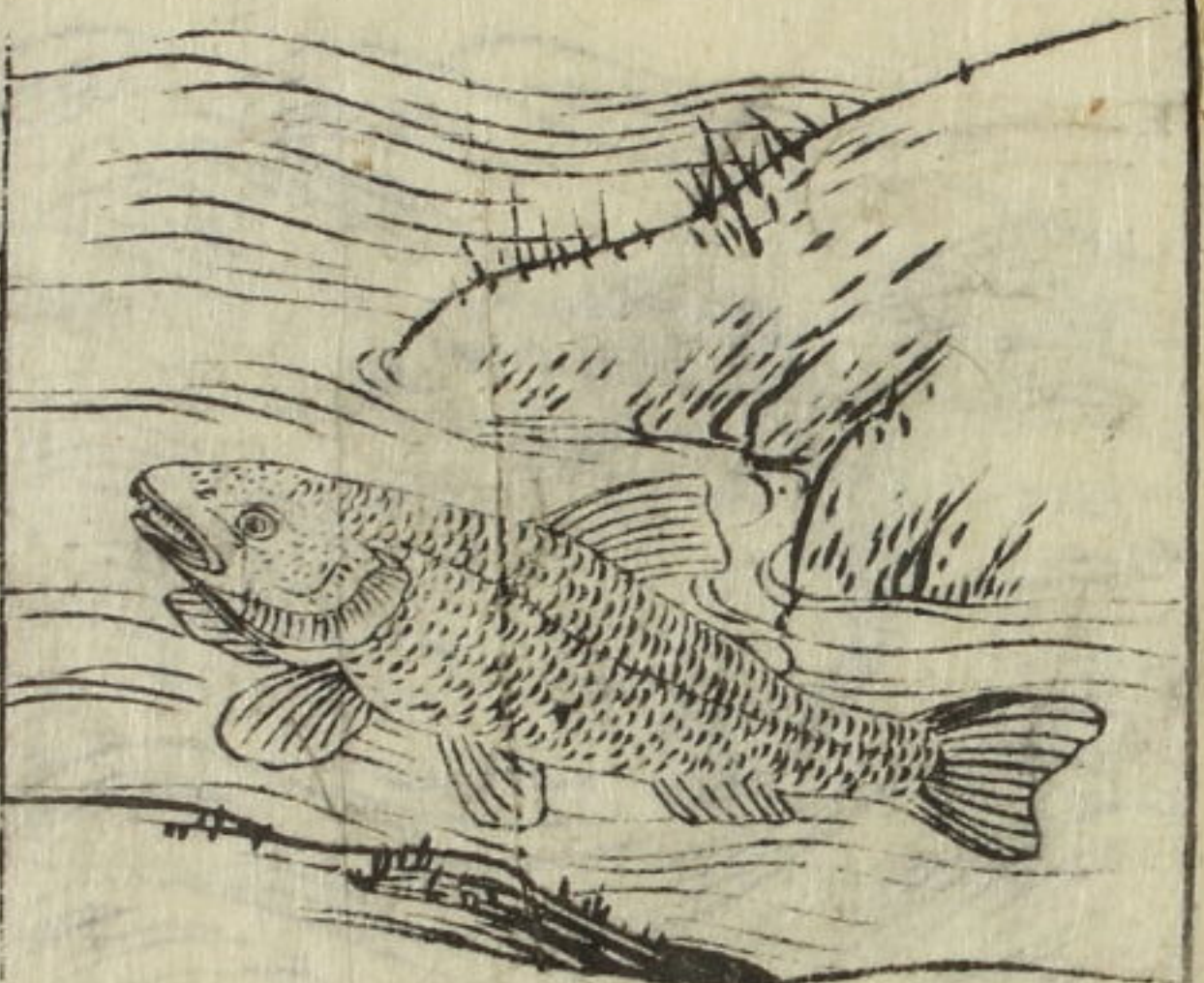


鱒魚

狀ハ鯪  
丈赤尾水  
仲の産  
向山  
水脈  
の属  
かり

鱒魚

その  
湖  
こまの  
小魚  
或の  
の苗  
と  
多



勒魚

狀鯪魚の  
細鯪腰の  
下硬刺  
あつて人  
を勒は  
一名は  
東南海中  
四月

鱒魚

其狀  
似て長二  
尺あり  
白く  
むく武  
まの  
入る  
これ

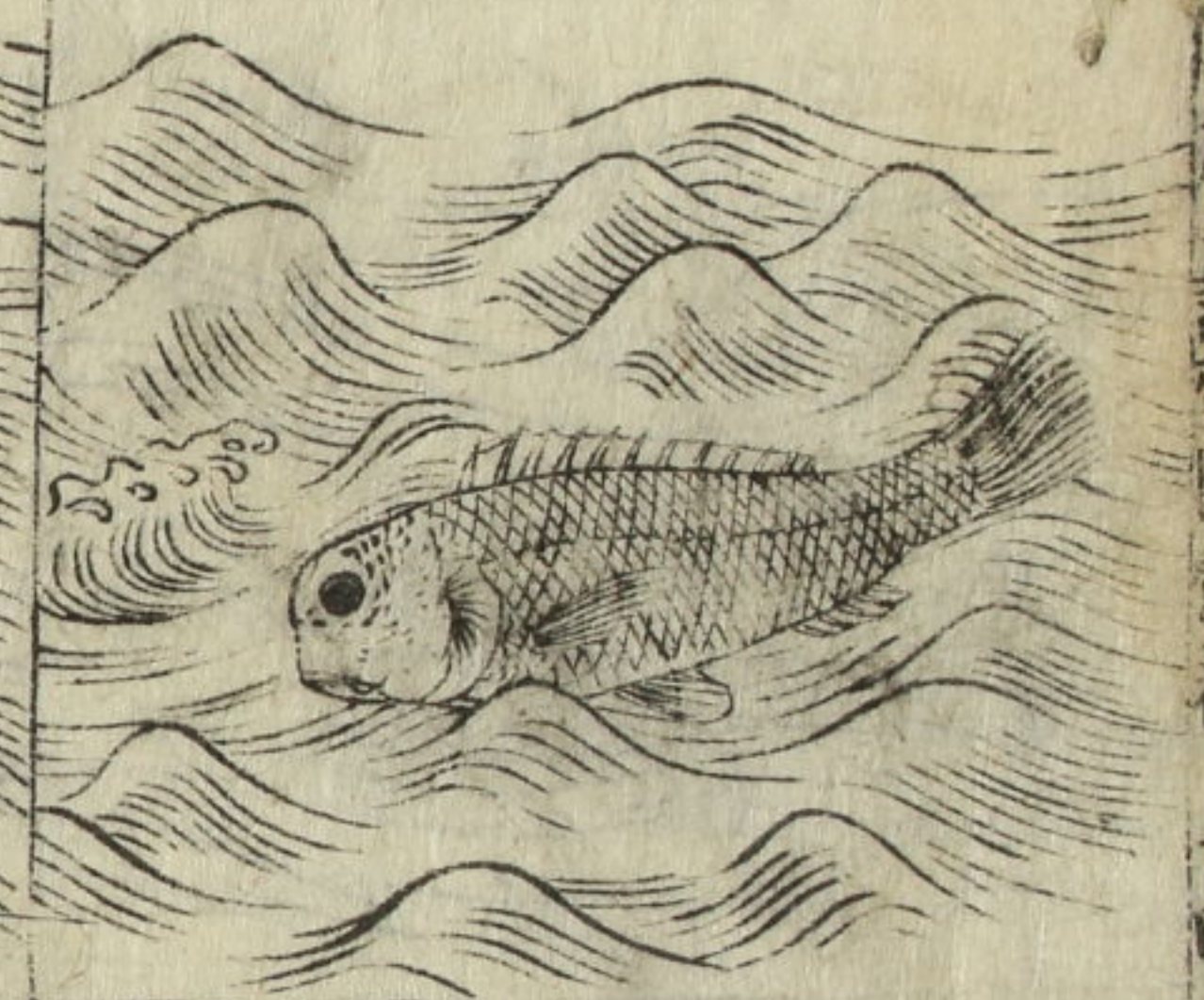


方頭魚

方頭魚は、  
大なりひ  
さいの骨  
尾に岐あり  
和名あま  
い

金線魚

金線魚は、  
質ハ棘鬚  
魚れしく  
て細長く  
このあま  
頰のこま  
いハ尾は  
この合線  
を以て遊  
撃利便  
系とよぶ



緋魚

緋魚は、  
状ハ紅紫  
魚のしく  
長人六寸  
くハ尾は  
紅紫の敷  
まわはる  
目大なり  
色赤の

火焼鱒

火焼鱒は、  
頭尾とも  
吻ハ似  
脊骨隆  
赤ハ鬚  
尾ハ連  
鱗ハ  
尾ハ赤  
色網重



肋魚

肋魚は、  
骨ハ骨  
を食り  
いりて  
このと  
映魚と名  
づく味  
佳なり

王竹助魚

王竹助魚は、  
身圓  
物のみ  
故に  
葉を  
時々の  
肥し

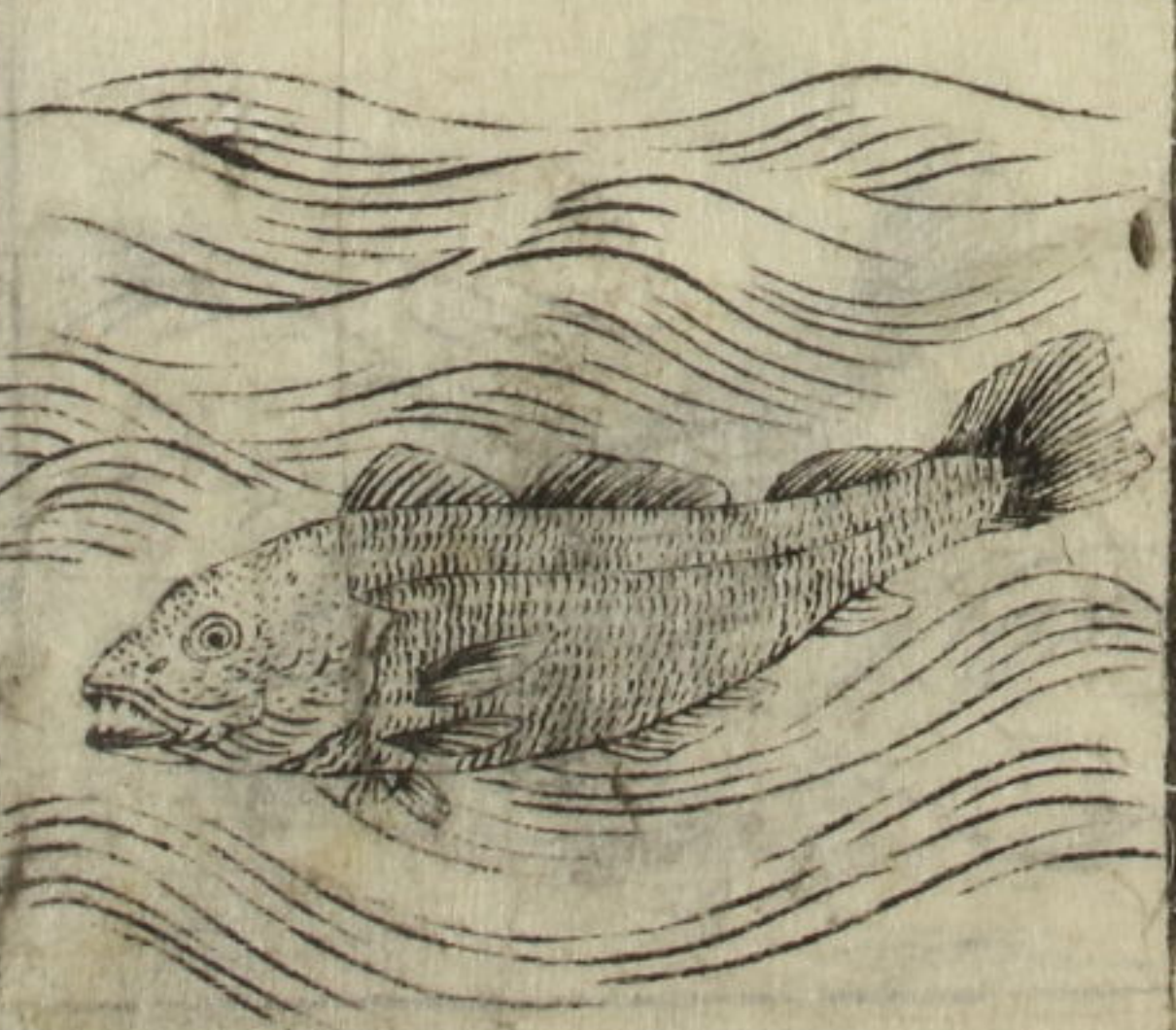


大口魚

大口魚は、  
その状鳥  
頰魚ハ似  
色淡  
細鱗  
以魚ハ  
肺ハ  
佳

竹魚

竹魚は、  
状ハ魚  
のハ  
骨刺  
色竹  
喜



鱖魚

狀鱖の如  
小形扁  
細  
腹肥  
一名連魚  
白



鱖魚

狀輕  
似て  
大  
骨  
名  
臭



鱖魚

狀  
似て  
鱖  
大  
細  
十斤



鱖魚

狀  
大  
名  
北



鞋底魚

狀牛脚乃  
細紫白  
一斤の  
名



華臍魚

狀  
大  
盤  
琵琶  
而形似琵琶



鱖魚

狀ハ馬鞭  
尾  
肉白  
或ハ



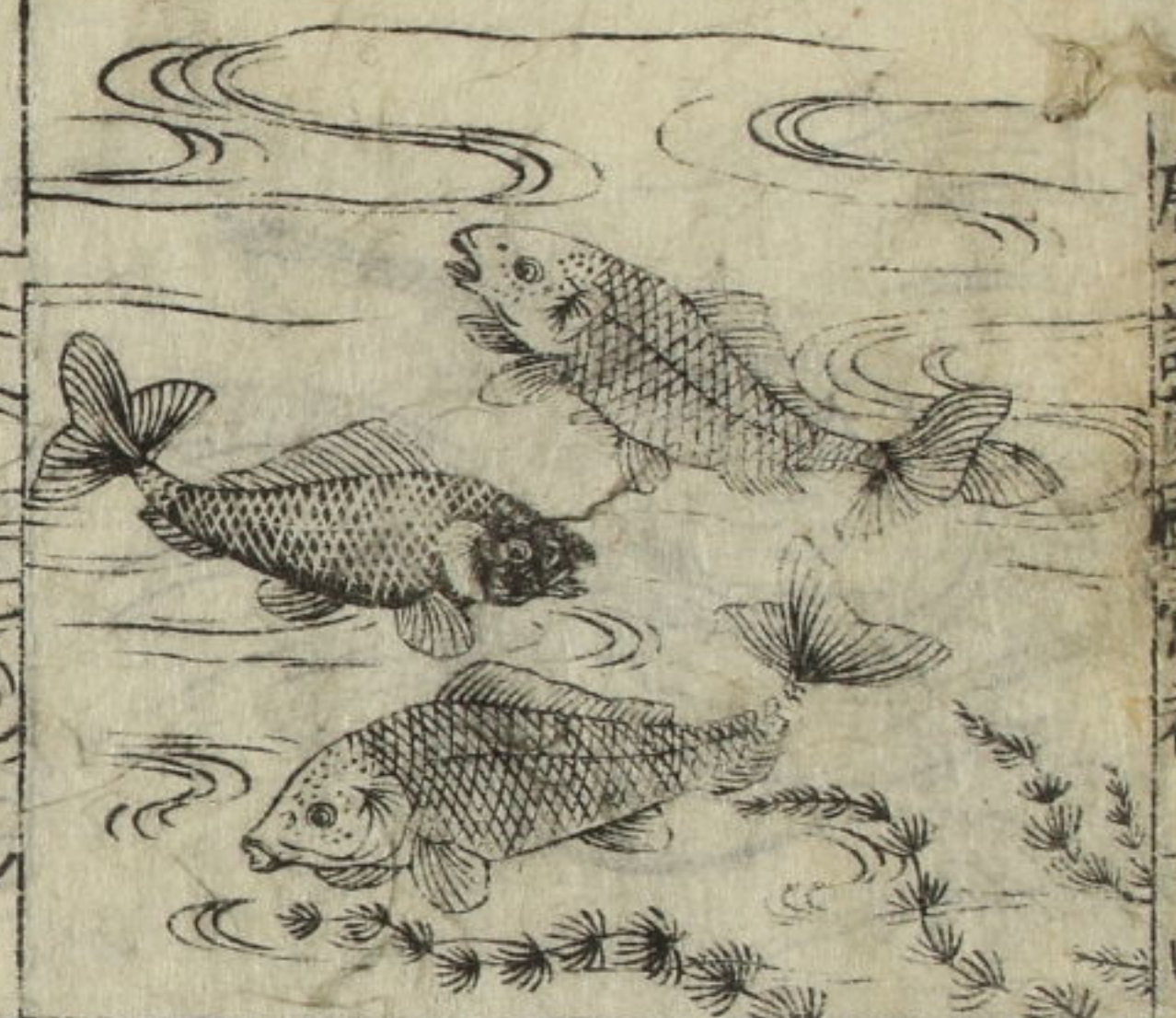
鱖魚

狀長く体  
尾  
舌



丹魚

形新乃  
尾は  
丹の如  
金さわり  
波魚の状  
同く



鯉魚

その状鯉  
似て小  
三と奔  
一と二後  
故魚  
鯉魚あり



鯉魚

似て肉厚  
鱗細  
文あり  
小魚  
沙と吹く  
わき子の  
つし



彈塗

一名の蘭明  
形小鯉  
似て短  
大なり者  
長三五寸  
潮退て干  
百群とか  
して跳



牛魚

状ハ鯉  
骨  
斑文あり  
腹の下  
牛に似  
といて名  
鯉の属



海龍

そのく  
龍乃  
龍あり  
足多  
毒あり  
和云ひ  
か



龍魚

形  
鱗  
の  
下  
腹  
脊  
肉  
著



龍魚

状ハ龍  
鱗多  
層か  
その味  
佳なり  
明海  
出





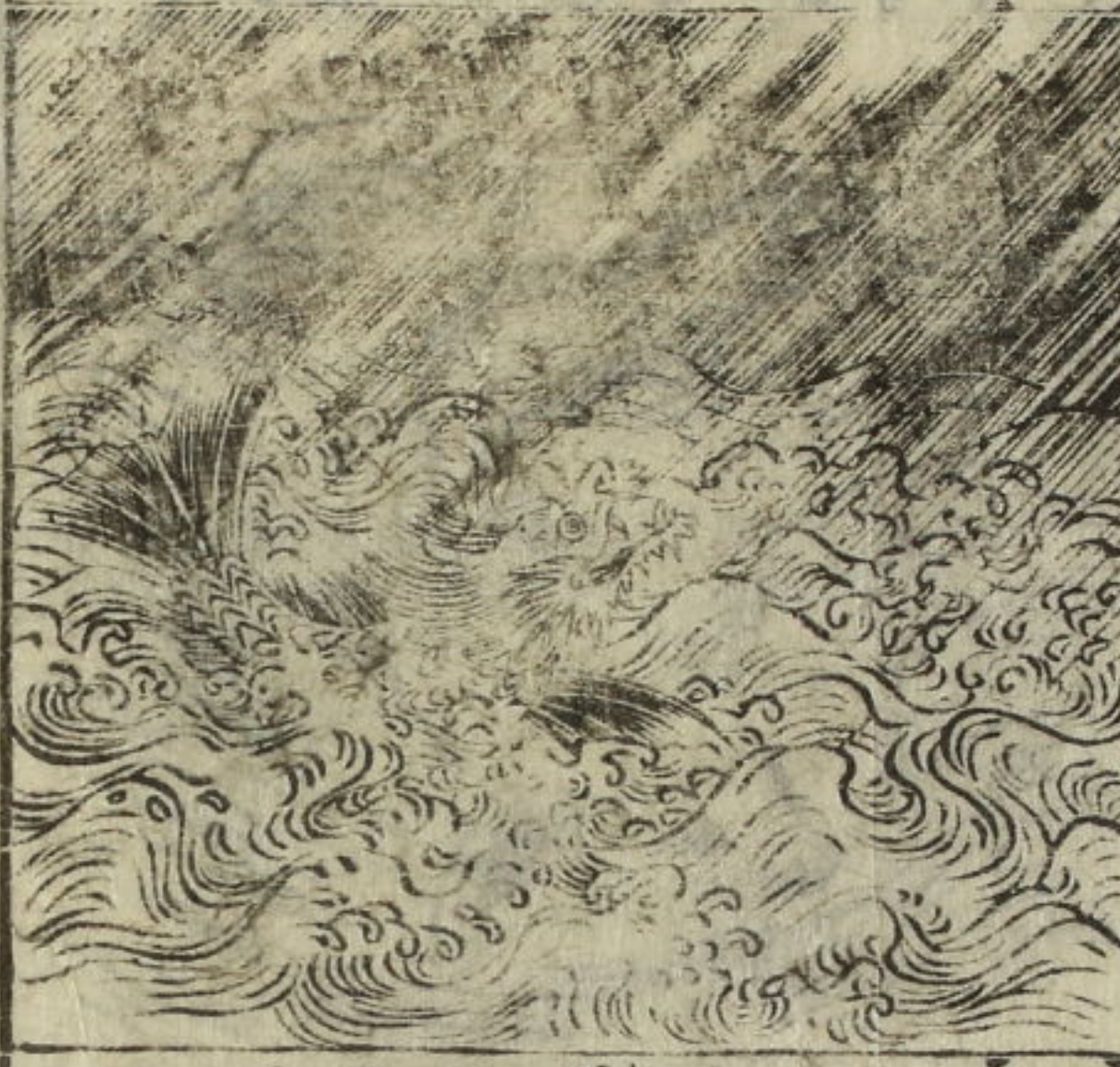
胡魁

そのまゝ  
上二河  
大なるもの  
長二丈餘  
小なるもの  
三二丈八寸  
鱗の



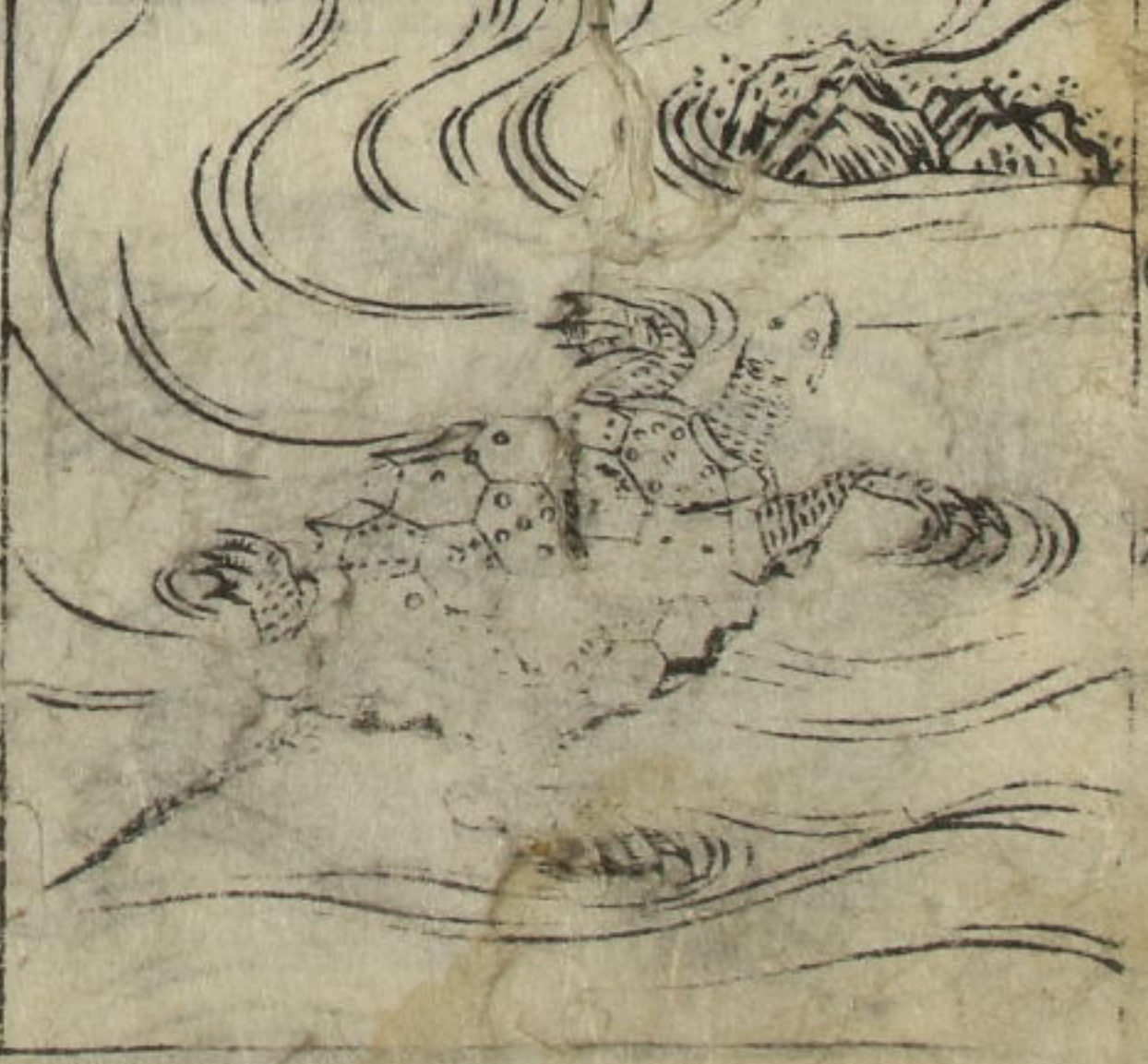
鴟尾

狀ハ龍  
浪ハ激  
内ハ有  
すハ故  
屋上の尾  
優ハ作  
火災と感  
鴟尾  
物



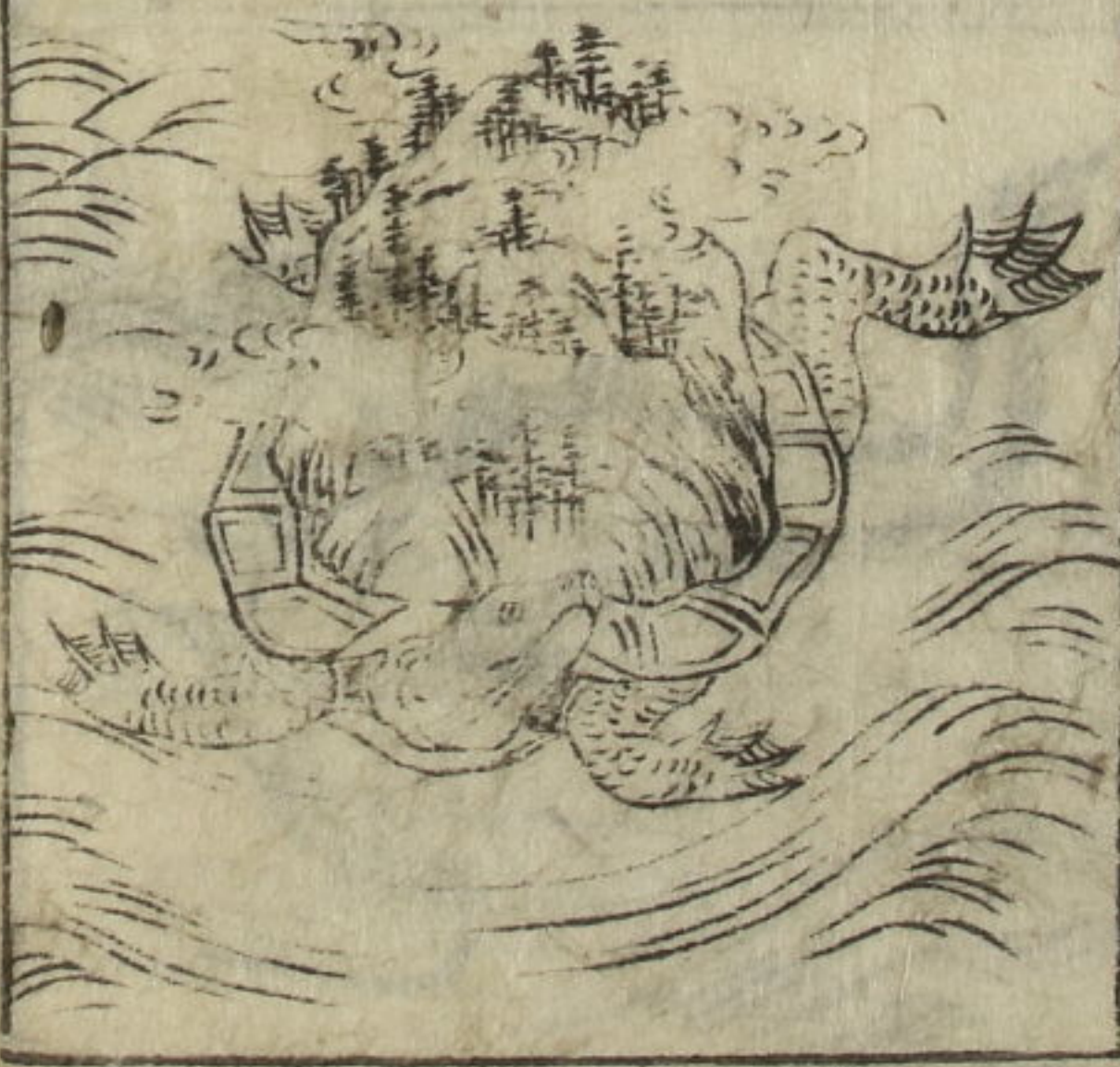
神龜

夏の尚  
と治玉  
洛水より  
龜知ら  
其甲  
又りて字  
畫の如  
禹王  
龍九龍  
の海



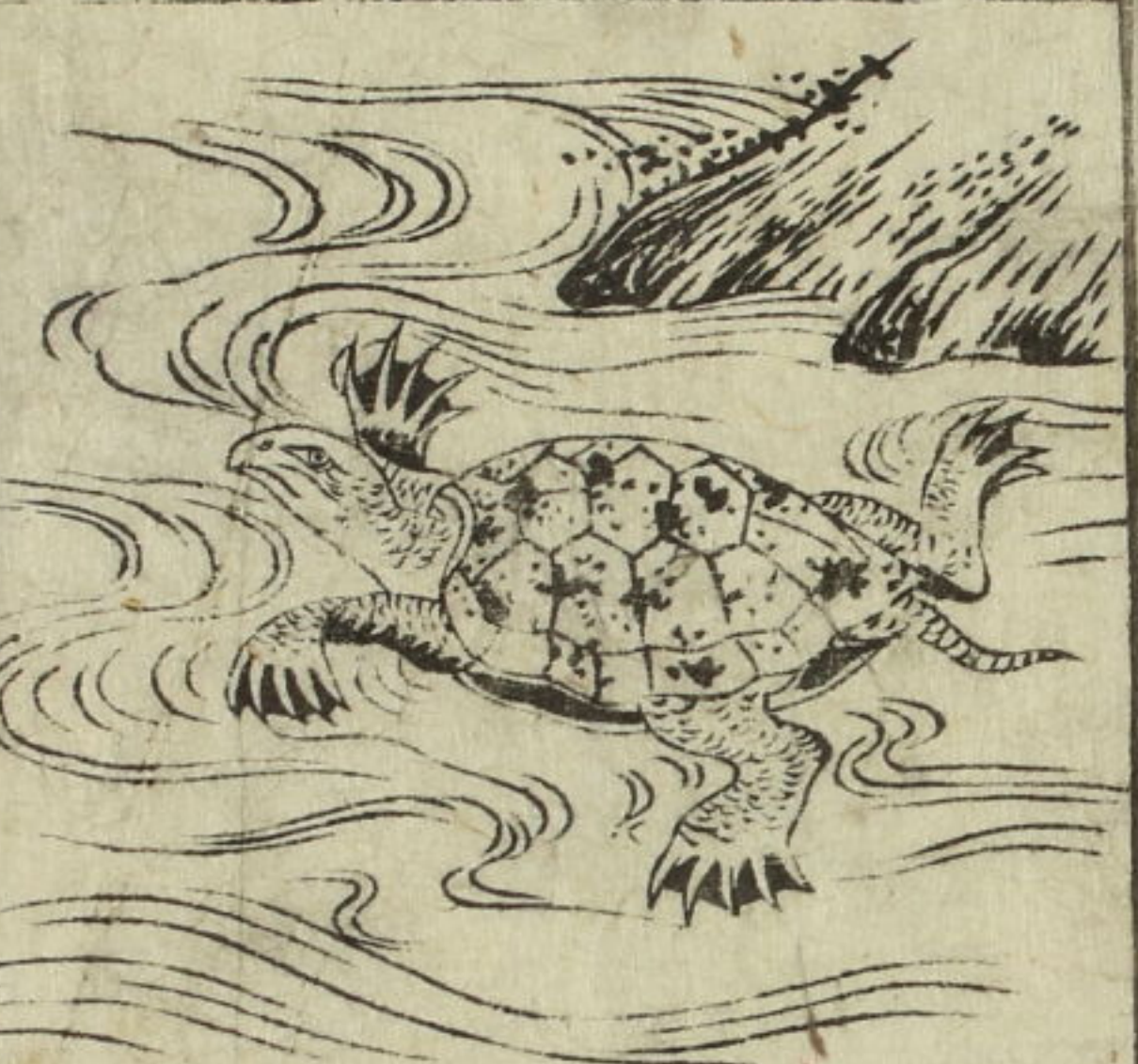
救龜

曰ク海  
の東  
員崎方  
瀛州蓬萊  
の五山あり  
巨龜首と  
仰てを  
この



蟻龜

跋踵  
出  
球  
交  
その甲を  
てト  
硬  
寶  
琥珀の雌



玄龜

狂陽山北  
怪水河  
東注水中  
玄龜多  
其狀鳥  
首尾の尾  
破水の  
の



瘡龜

石下  
偏頭大背  
老瘡と  
或ハ病人  
外に起  
掛



攝龜

名  
腹小  
中心  
能自  
圓川  
地と  
故ハ  
龜



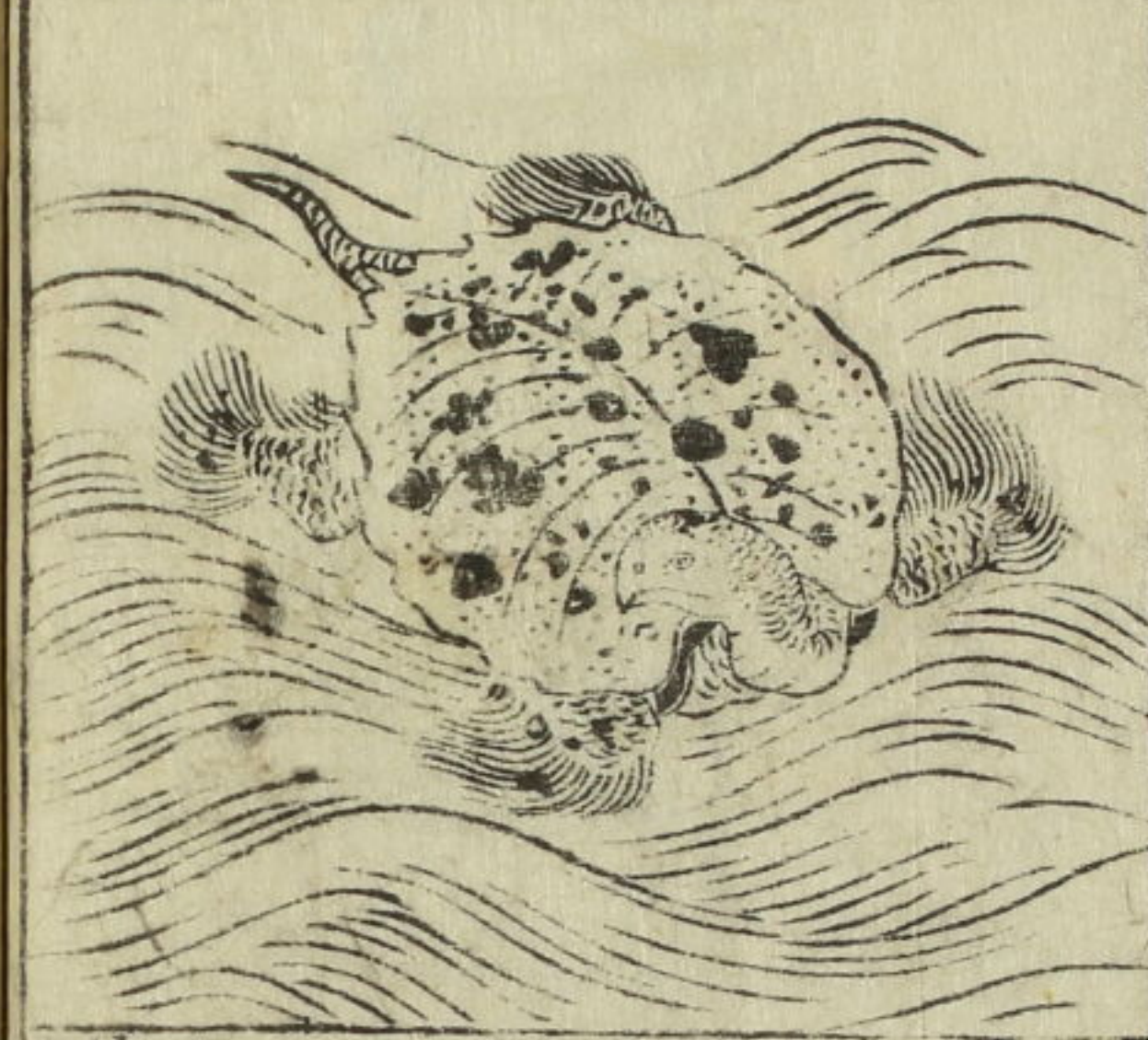
珠鼈  
葛山澤  
中に多し  
生狀六月  
ありて六月  
ありて腹内  
に珠あり  
酸味有く  
時氣と避



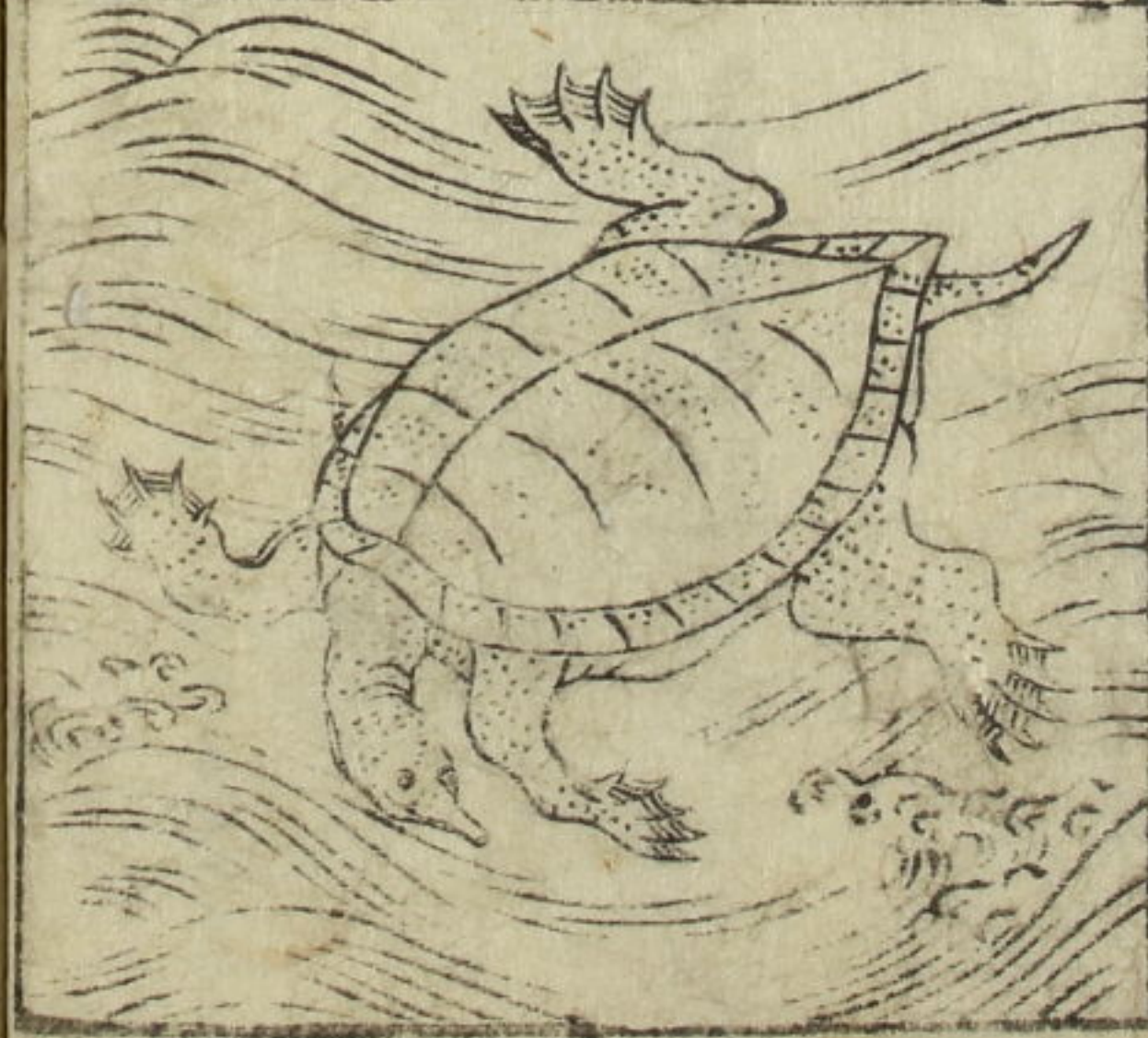
能鼈  
足が有力  
是れ其法  
郡湯美  
縣君山  
池ありそ  
の鼈多



龜鼈  
その形  
のく大  
甲よりあり  
甲よりあり  
文よりあり  
玳瑁の  
玳瑁の  
玳瑁の



元鼈  
狀鼈  
似て最大  
臘鼈あり  
鼈と雖も  
その卵と生  
胎の卵のと



知つ歩  
その形  
蟹一川の  
大より川の  
小より大  
蟹ハ爾小  
蟹ハ物と  
合ふとの  
蟹赤



鬼蟹  
形の蟹  
甲より  
人面の状と  
わらわら  
和云々を  
カニニムラ  
カニギツ子



百足蟹  
善苑國  
百足蟹あり  
その長九尺  
ありて蟹  
口ありて蟹  
て蟹あり  
鳳吸膠  
草木子



招潮子  
小蟹ありて  
穴と出て  
のいこわ  
つりてま  
りてま  
くうく





水虎經

水虎經の  
小虎のし  
甲のきり  
西の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の



謝豹の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の  
虎の虎の



無三祖六法之傳。皆不能以通神矣。始有牙  
令所集。殊未之覺。仲由之水。初昭君之帷帽  
之病。親者宜之。怒正焉。

浪華

畫者

橘有稅



多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之  
所宜潛心也。此書就天地人物圖之說。之裁  
為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所  
収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆  
貽嘲。專庵頃有此選。予與校讎。因附一辭于  
卷尾。云享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫。跋



享保己亥歲  
孟陽吉且

書肆

大坂安堂寺町心齋橋  
大野  
江戸日本橋

